

Maudsley Obsessional-Compulsive Inventory の 因子構造の検討

—女子大学生において—

児 玉 美 幸

問題と目的

慎重に物事を行おうとするときに何回も確認をしたり、不潔に感じて手や身体を洗ったりするのは、我々も普通に行なっている行為である。しかし、確認行為や洗浄行為が過剰に繰り返されると、日常生活に支障が出る。過剰な確認や洗浄は強迫行為 (compulsive) と呼ばれ、強迫性障害 (Obsessive-compulsive disorder: OCD) の症状のひとつである。たとえば、毎晩夜中に何度も寢床を離れてドアの鍵がかかっているかどうか確かめたり、どこかの鍵をかけ忘れていたのではないかと気になって仕方ない状態がある。それだけに注目すると、一般の人々の確認行動と強迫的な確認行動との間に違いがないように思われる。しかし、確認行動が過剰になったり硬化したり生活機能に支障をきたすとき、症状として問題視される。

OCD の症状には、強迫行為の他に、不快な思考が頭に浮かんで止められない強迫観念 (obsession) という症状がある。強迫観念も、OCD 患者に特有のものではなく、健常者にも強迫観念に似た思考が認められることが明らかになっている (Rachman & de Silva)。しかし、健常者にみとめられる強迫性は、一般に OCD 患者と比べて頻度、強度ともに軽微である。

次に強迫性障害の症状を評価する尺度を挙げる。Yale Brown Obsessional Compulsive Scale (Y-BOCS)・Leyton Obsessional Inventory (LOI)・MOCI (Maudsley Obsessional Compulsive Inventory; 以下 MOCI と略す) などが代表的である。Y-BOCS は強迫症状の性質と重症度を測るのに半構造化面接が用いられる。そのため、評価者がある程度習熟していることが必要で、施行に時間を費やす。LOI は自己記入式調査表で簡便であるが、69 もの質問項目からなる。Hodgson & Rachman (1977) が作成した 30 項目からなる MOCI 尺度

(付録 1) は自己記入式で 30 項目と項目数が少なく、「確認」「清潔」「遅延」「疑惑」などの強迫症状をより簡便に評価し、外国においては、臨床研究にしばしば使用されている。

Hodgson & Rachman (1977) は MOCI を 100 人の強迫患者に施行し、その反応から主成分分析によって、主症状「確認」と「洗浄」、副症状「遅延」と「疑惑」の 4 つの成分を抽出した。下位尺度は、確認 9 項目 (Q 2, 6, 8, 14, 15, 20, 22, 26, 28)、洗浄 11 項目 (Q 1, 4, 5, 9, 13, 17, 19, 21, 24, 26, 27)、遅延 7 項目 (Q 3, 7, 10, 11, 12, 18, 30)、疑惑 7 項目 (Q 2, 4, 8, 16, 23, 25, 29) であった (項目内容は付録 1 参照)。5 番目の成分は「反芻」に関する 2 項目 (Q 2, Q 8) だけだったので排除された。

健常者にみとめられる強迫性は、因子構造においても OCD 患者の強迫症状と類似していることが以下の研究で検証されている。Sanavio (1985) は、868 人のイタリア人学生を対象として、MOCI イタリア版を施行し、その反応を男・女・サンプル全体とに分けて因子分析 (バリマックス回転) をおこなっている。その結果、男性は「疑惑と反芻」「遅延」「確認」「過度な洗浄」の 4 因子、女性は「洗浄」「疑惑と確認」「朝の準備に関する 2 項目 (Q 16, Q 26)」3 因子、男女全体の分析では「確認 (checking)」「疑惑・反芻 (doubting and ruminating)」「洗浄 (cleaning)」の 3 因子を抽出した。確認 7 項目 (Q 6, 18, 20, 22, 23, 28, 30)、疑惑・反芻 4 項目 (Q 2, 8, 10, 30) 洗浄 9 項目 (Q 9, 16, 17, 19, 21, 24, 26, 27, 29) であった。また、クロンバックの α 係数は 0.77 と質問紙全体の内的整合性は高い値を示した。ただし、Q 11 と Q 14 の項目は全体との相関が低い項目であったので削除されている。Sanavio (1985) は男性と女性の結果の比較から、女性の「朝の準備」に関する slowness の因子は女性に限られることを示し、女性の「朝の準備 (slowness)」因子は

強迫問題として扱うよりも、服装や身だしなみの問題と考えた方が良くと考察している。

Chan (1990) は香港の中国人学生 183 人を対象に「確認」「洗浄」「疑惑」を抽出し、日本でも細羽 (1992) によって、「確認」「洗浄」「疑惑・反芻」の3個の因子に分類され、slowness は因子として抽出されなかった。また、関山 (2003) が男子高校生を対象におこなった研究でも、因子構造は Sanavio & Vaidotto, Chan, 細羽らの研究とほぼ一致しており、slowness 因子は抽出されなかった。

以上のように、Hodgson らの研究による OCD 患者の因子構造には slowness 因子が抽出されているが、健常者対象の研究には slowness は抽出されていない。これは「強迫性緩慢」というひとつの作業を終えるのに非常に長い時間がかかる症状を表しており、OCD が重くなったときの症状を示しているのかもしれない (井出, 1995)。

しかし、Sanavio による女性のデータの因子分析では slowness が抽出されていることも事実である。そこで本研究では、健常者と OCD 患者とはどういう点で異なっているのか項目内容を検討すること、女子学生対象の調査で『遅延』因子が抽出されるのかということ、他国の研究と比較することにより強迫症状に関する因子構造の特徴を検討することを目的とした。

方 法

被調査者：女子大学生全学科3・4年・大学院生 1258 名 (M=21.01 歳, SD=1.49 歳)

質問紙：吉田ら (1995) によって邦訳された強迫性障害の症状を測定する尺度 Maudsley Obsessive Compulsive Inventory 日本版 30 項目を使用 (付録 1)。

調査方法：授業のオリエンテーション終了後に、集団アンケート方式で実施した。(8 箇所の教室で一斉におこない、心理専攻大学院生数名に実施を依頼し、あらかじめ研究の目的や施行方法のマニュアルを渡し熟読してから実施してもらった。)

回答方法：“はい・いいえ”の2段階で自己評定を求めた。

結 果 と 考 察

30 項目で因子分析 (主因子法・バリマックス回転) をおこなった結果、9 因子が抽出された。しかし、どの項目も因子負荷量が 0.35 に達していない因子があ

るなど問題があった。そのため、先行研究の結果と同様の 4 因子指定でおこなった。その結果、解釈可能な 4 因子を得た (累積寄与率 30.36%)。第 1 因子は「あれこれと考えてしまう」といった項目なので「疑惑 doubting/ruminating」に関する因子とした。第 2 因子は「何度も確かめる」「ガスの元栓・水道を何度も確認する」など、「何度も確認する」という言葉の入っている項目に、高く負荷しているので、「確認 checking」と解釈できる。第 3 因子は「手が汚い」「バイ菌や病気」などの項目で負荷量が高いので、「清潔 cleaning」と解釈した。第 4 因子は身支度や洗面に時間がかかるといった内容なので、「遅延 slowness」に関する因子と解釈した。

因子分析の結果の詳細と先行研究における因子構造について表 1 にまとめた。このように、本調査でも、先行研究と類似した因子“確認”“清潔”“遅延”“疑惑”が抽出された。そして、確認・洗浄・疑惑・遅延の 4 つの要因が、健常者と患者に共通して認められる構成要素だと考えられる。

しかし、健常者で抽出された因子は、Hodgson & Rachman (1977) の各因子のなかでも負荷量の高い項目が残り、全体的に項目数が少なくなっていたものである。つまり、臨床患者に実施されたときの各因子で因子負荷量の高い項目で構成されているのが、健常者の因子であると言える。

表 1 を見ると、MOCI の因子構造は Sanavio & Vaidotto, Chan, 細羽, 関山らの研究とほぼ一致しているが、本研究では slowness 因子が抽出された。このことは注目すべき結果であるといえる。

まず、本調査の確認因子には、Hodgson & Rachman (1977) 確認因子の負荷量の高い項目だけが残っている。本調査結果を Hodgson の研究と比較すると“何度も確認する”という点では共通しているが、“確認に時間がかかる”“困ったり嫌な考えが頭から離れない”“生活に支障が出る”というような項目は、高い負荷量を示さなかった。その理由として、次のデータが参考になると思われる。

筆者がおこなった『確認行動に関する調査』(付録 2) で、一度おこなったことを再度確かめることがどのくらい苦になっているかを、「全く苦にならない」を 1 として「非常に苦になる」の 7 までの 7 段階評定で最も当てはまる数字に○をつけてもらった。MOCI 総得点と 7 段階の評定得点、および Hodgson & Rachman (1977) 確認下位尺度得点と 7 段階の評定得点それぞれ、ピアソンの積率相関係数を算出したところ、

表 1 MOCI の因子分析結果および先行研究との対照

項目 No.	因子分析結果				先行研究				
	Factor 1 (DR)	Factor 2 (H)	Factor 3 (L)	Factor 4 (S)	Hodgson & Rachman(1977)	Sanavio & Vidotto (1985)	Chan (1990)	細羽 (1992)	関山 (2003)
Q 8 非意志的に嫌な考え	0.607				H, S	DR	DR	DR	DR
Q 2 嫌な考えが離れない	0.594				H, S	DR		DR	DR
Q 10 疑問に思う	0.567				DR	DR	DR	DR	DR
Q 18 細かいことまで考える	0.549				DR	H	H	DR	DR
Q 7 融通がきかない	0.379				DR				
Q 20 確認することに困っている	0.311				H	H	H		H
Q 22 何でも確認する		0.785			H	H		H	H
Q 6 ガス・水道・ドアの確認		0.521			H	H	H	H	H
Q 15 宛名を確認		0.483			H			H	H
Q 17 潔癖症			0.508		L	L	L	L	L
Q 24 お金が汚いと思う			0.454		L	L	L	L	L
Q 21 ばい菌や病気が気になる			0.344		L	L	L	H	L
Q 27 消毒剤を使う			0.337		L	L			
Q 5 動物が汚い			0.330		L		L	L	
Q 26 朝の洗面に時間がかかる				0.509	H, L	L		L	L
Q 16 朝の身支度の時間				0.432	S	L		L	L
Q 28 確認に時間がかかる				0.367	H	H	H	H	
Q 29 服の片付け					S	L			L
Q 4 よく遅れる					L, S		DR		DR
Q 12 やり直して仕事が遅れる					DR		H	DR	H
Q 13 石鹸の量					L			L	
Q 1 公衆電話の不清潔さ					L			L	
Q 25 数の確認					S				L
Q 14 不吉な数字					H				
Q 19 トイレの汚さ					L	L			
Q 30 うまくいかないと思う					DR	DR・H	DR	H	
Q 9 誰かとぶつかると思う					L	L	L	L	
Q 11 両親の厳しさ					DR				
Q 3 正直であろうとする					DR				
Q 23 日常生活の計画をたてる					S	H	L	H	L
固有値	4.075	2.111	1.580	1.343					

[註 1] 因子負荷量は、絶対値 0.300 以上を掲載

[註 2] DR (doubting/ruminating: 疑惑・反芻)・H (checking: 確認)・H (cleaning: 清潔)・SL (slowness: 遅延)

MOCI 総得点との相関は $r=0.14$ 、確認下位尺度得点との相関は $r=0.18$ であり、どちらも相関はなかった。

このことから、本調査のサンプルでは、強迫性と確認行動が本人に苦痛をもたらしてはいなかったことが分かる。したがって、健常者には、強迫や確認というのが、常に苦痛をもたらすものではないことを示唆する。繰り返し確認をすることは社会的にみても、確実に物事を遂行するためには必要な行動である。また、社会でも確認を必要とする仕事は多い。例えば、電車の車掌は指差し確認をしている。これは繰り返しおこなわれるが、何を確認しているかという目的がはっきりしているし、苦痛というわけではないだろう。

そう考えると、臨床患者の確認因子には、意思に反して嫌な考えが浮かんでくる、何度も確認することにひどく時間がかかる・困っているというような項目が

含まれるのに対し、健常者の確認因子には含まれなかった。これは、強迫性障害の患者の確認行動には強迫観念や強い苦痛が伴い、時間を浪費するという特徴があることを示している。それは、DSM-IVの強迫性障害診断基準として挙げられているものの特徴でもある。しかし、Sanavio (1985) や細羽 (1992) が学生に実施した研究の確認因子は、意思に反して嫌な考えが浮かんでくるという強迫観念のような内容は含まれなかったものの、“何度も確認することに困っている”、“確認に時間がかかる”、“細かいことまで考える”、“慎重に行ってもうまくいかないように思える”といったネガティブな思考をするという項目が含まれていた。このことから、何度も確認することに困っている、確認に時間がかかるからといって、強迫的な確認行動の特徴と考えるには、まだ検討が必要である。また、日本以外の研究では、確認行動に認知的な症状(疑惑・反

芻に入るような項目)が関わっているため、「疑惑」という認知的なものが情動や行動にどのような影響を与えるのか考慮する必要があると思われる。

次に清潔因子も、確認因子同様、Hodgson & Rachman (1977)の洗浄下位尺度で因子負荷量の高い項目「お金に触れると汚い」、「バイ菌や病気が気になる」という項目が残っている。潔癖症である、過剰な心配、多量の消毒剤など、適切な範囲内を超えた「過度」を示す項目は清潔因子に含まれなかった。Q1の項目はほとんどの人が「いいえ」と答え、平均が0.1の項目だったので排除された(図1)。おそらく、今20代女性の多くは携帯電話を持ち、公衆電話を使用すること自体あまりないのが現状であろう。したがって、この項目で清潔に関するものを測定するのは時代を反映していないものであったと思われる。

Sanavio (1985)の研究では、清潔の因子の中で“整頓・身支度に時間がかかる”という項目の負荷量が高く、項目構成もHodgson & Rachman (1977)とも重なる部分が多い。過度に“汚いのではないか”とか“ちゃんと洗えていないのではないか”と心配すると、洗浄(洗面・身支度)・整理整頓に時間がかかり行動に支障が出始めるということであろう。

一方、本調査では、時間に関する項目が全く含まれなかった。すなわち、清潔は気になったとしても、そこで行動に支障が出ることにはつながらないと言える。このことから、臨床患者にとって洗浄と時間には密接な関わりがあるということが推測される。

そして、時間を表すものが遅延因子である。これ

は、Hodgson & Rachman (1977)の遅延項目とは異なっている。また、Sanavio (1985)の男女合わせたデータでは遅延の因子は発見されなかったが、女子のみのデータで因子分析した結果では、男性データの因子分析で出てこなかった「朝の準備に関する項目(Q16.26)」を抽出している。これは、本調査で「遅延」と命名した(Q16, 26)と一致するものである。

Sanavio (1985)は「朝の準備に関する因子」を美を追求する問題と言えらという。そして、若い女性の場合、朝の身支度や洗面に時間がかかるのは特別な強迫的問題とは捉えていない。

このことを考慮すると、本研究は女子だけのデータでもあることから、あれこれ考えがめぐって時間が過ぎていってしまうHodgson & Rachman (1977)の遅延項目とは違い、時間をかけてエレガントさを追求するという性質を持った因子である可能性は高い。またChan (1990)は香港の中国人学生183人を対象に「確認」「洗浄」「疑惑」を抽出しているが「遅延」は現われなかった。このことから、「遅延」は健常者の人に共通する主要素ではないことは明らかである。すなわち健常者による因子分析から得られなかった「遅延」とは臨床強迫症状をもつ患者にのみ起こると考えられるだろう。

「疑惑」を示す因子は、研究によって少しずつ因子を構成する項目が異なる。ただし、“これでいいのか?!”ということに思い悩む頑固なパーソナリティや細部へのこだわり表現する因子であると言える。

Sanavio (1985)ではQ11とQ14は全スコアと全

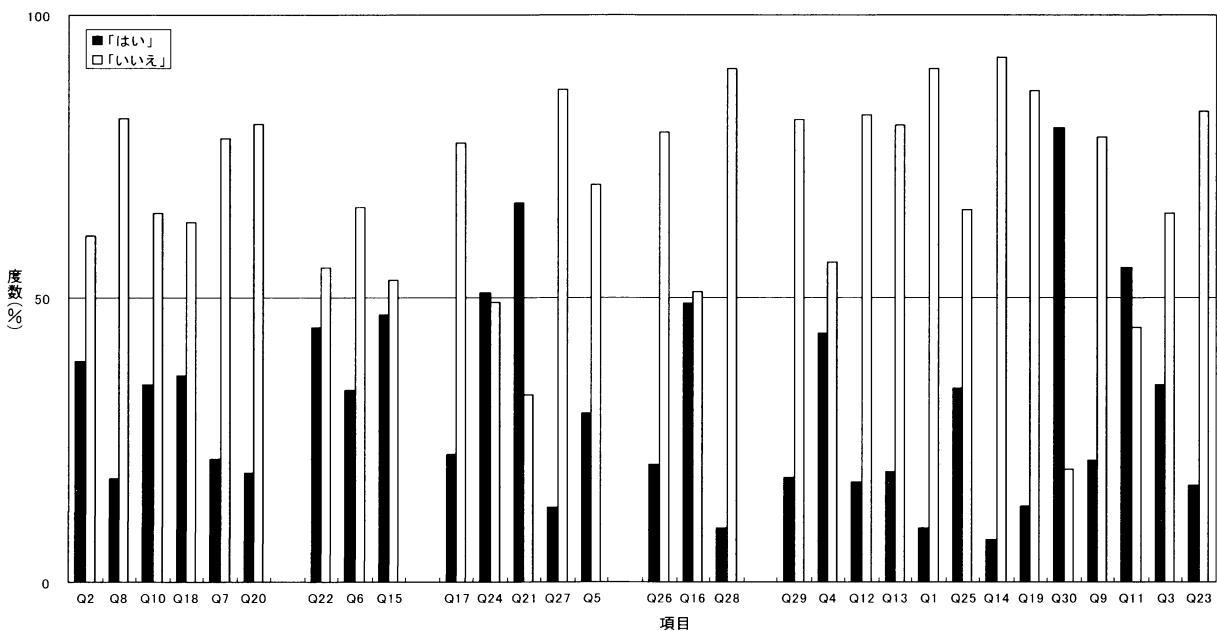


図1 各項目の度数 (%) 逆転項目修正後

く相関がなく、排除して分析がおこなわれている。また、本研究でも多くの人が、Q14に“いいえ”と回答し、項目平均が0.1であった(図1)。そのことから、不吉な数字や両親の厳しさは、健常者との関わりが弱く、臨床患者に特徴的なものであると考えられる。

Cronbach の α 係数は第1因子が0.693, 第2因子が0.652, 第3因子が0.514, 第4因子が0.439であった。下位尺度の内的整合性に関して十分な値とは言えない。また Hodgson & Rachman (1977) の各下位尺度に基づき、本データの α 係数を求めると、確認 $\alpha=0.623$, 洗淨 $\alpha=0.5477$, 遅延 $\alpha=0.353$, 疑惑 $\alpha=0.470$ といずれも低値であった。一方, Hodgson & Rachman (1977) や吉田 (1995) の研究では, 4つの下位尺度の内的整合性を示す α 係数はどれも0.7以上の高値を示した。

本稿で項目内容を詳細に見ることによって、『遅延・疑惑』に関しては健常者と臨床群に非常に大きな違いが見られることがわかった。そして、『清潔』には、衛生や清潔を追求する面と、日常生活で使うようなお金を気にする面では、同じ清潔でも少し違った次元の話だとも考えられた。

本調査は、邦訳の問題や日本の強迫性障害の患者を対象との比較ではないという問題は残されるものの、因子分析の結果を Hodgson・Sanavio らの結果と比較することで、臨床的な問題特徴を示唆する手掛かりになったと思われる。

今後、日本人臨床群の強迫症状の因子構造、因子構

造の性差についての検討する必要がある。

また、行動に影響すると考えられる「疑惑」から臨床群と健常者の違いを明確にしていくことが、今後の課題として残る。

引用文献

- American Psychiatric Association 1994 *Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders*, 4th ed. Amrican Psychiatric Association (高橋三郎・大野 豊・染谷俊幸(訳) DSM-IV 精神疾患の診断, 統計マニュアル 医学書院.)
- Chan, D. W. 1990 The Maudsley Obsessional-Compulsive Inventory: A psychometric investigation on Chinese normal subjects. *Behaviour Research and Therapy*, **28**, 413-420.
- Hodgson, R. & Rachman, S. 1977 Obsessinal-Compulsive complaints. *Behaviour Research and Therapy*, **15**, 389-395.
- 細羽竜也 内田信行 生和秀敏 1992 日本語版モーズレイ強迫神経症質問紙(MOCI)の因子論的検討 広島大学総合科学部紀要IV理系編, **18**, 53-61
- 井出正明 細羽竜也 西村良二 生和秀敏 1995 強迫傾向尺度構成の試み 広島大学総合科学部紀要IV理系編, **21**, 171-182
- Sanavio, E., & Vidotto, G. 1985 The Components of the Maudsley Obsessional-Compulsive Questionnaire. *Behaviour Research and Therapy*, **23**, 659-662.
- 関山 徹 2003 高校生における強迫現象の因子構造について—特性不安, 抑うつおよびストレス・コーピングとの関連 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, **13**, 169-176
- 吉田充孝・切池信夫・永田利彦・松永寿人・山上榮 1995 強迫性障害に対する Maudsley Obsessional Compulsive Inventory (MOCI) 邦訳版の有用性について. *精神医学*, **37**(3), 291-296.

付録1 Mausley Obsessive Compulsive Inventory 日本版

	はい	いいえ
1. 不潔だと思うので、公衆電話は使わないようにしています。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
2. いやな考えに取りつかれて、それからなかなか離れられません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
3. 私は人一倍正直であろうと心がけています。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
4. 何事も時間通りにできないためだと思いますがよく遅れてしまいます。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
5. 動物に触れるのがあまり汚いとは思いません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
6. ガスの元栓や、水道の蛇口、ドアの鍵などを閉めたかどうか何度も確認しないと気がすみません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
7. 私は、非常に融通がきかない人である。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
8. 毎日のようにいやな考えが意志に反してわき上がってきて困っています。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
9. 偶然、誰かとぶつかるかどうかと過剰な心配をすることはありません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
10. 日常の何でもないことをしていても、これでいいのかひどく疑問に思ってしまう。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
11. 私は子供の頃に、両親はどちらも特に厳しくはありませんでした。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
12. 何度も繰り返してやり直さないと気がすまないで仕事が遅れることがあります。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
13. 石鹸は普通の量しか使いません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
14. 私には不吉な数字があります。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
15. 手紙を出す前に、何度も相手の住所や名前を確認することはありません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
16. 朝の身仕度にそれほど時間はかかりません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
17. 私はそれほど潔癖性ではありません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
18. 細かいことまで、あれこれ考えすぎて困っています。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
19. 手入れのいきどついたトイレなら何のためらいもなく使うことができます。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
20. 今困っていることは何度も確かめないと気がすまないことです。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
21. バイ菌や病気などのことは特に気になりません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
22. 私は何度も確かめる方ではありません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
23. 日常生活をどのように行うかを厳密に決めていません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
24. お金に触れると手が汚くなるとは思いません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
25. 普通の時に、数を確認しながらすることはありません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
26. 朝の洗面に時間がかかります。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
27. 多量に消毒剤を使うことはありません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
28. 何度も確かめるので、毎日ひどく時間がかかってしまいます。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
29. 帰宅後、服をかたづけのにあまり時間はかかりません。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
30. いくら慎重に行ったところで、うまくいかないと思うことがあります。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>

付録2 確認行動における調査の質問紙

1. やったことをもう1度確かめるということは誰にでもあることです(例えばお風呂の栓が本当にちゃんと閉まっているか心配なとき、あるいは頭がボーとしていて栓を閉めたかどうか思い出せないときなど)。このように家や学校の生活の中で再度確かめることがありますか? それほどのような事をどういう時にですか? 何でも結構ですから、主なものを思いついた順に2つ書いてください。

①
②

2. 例えば外出の際、鍵をかけてきたかどうか記憶をたどっていても“鍵をかけた”という自信が持てないようなことがあるかもしれません。このように1度行った事を思い出せる記憶力にどのくらい自信がありますか? 全く自信がないを1として非常に自信があるの7までで最もあてはまる数字に1つだけ○をつけて下さい。

全く自信がない	ほとんど自信がない	あまり自信がない	どちらともいえない	やや自信がある	かなり自信がある	非常に自信がある
1	2	3	4	5	6	7

3. 1度行ったことを再度確かめることが、どのくらい苦になっていますか? 全く苦にならないを1として非常に苦になるの7までで、最もあてはまる数字に1つだけ○をつけて下さい。

全く苦にならない	苦にならない	どちらかといえは苦にならない	どちらともいえない	どちらかといえは苦になる	苦になる	非常に苦になる
1	2	3	4	5	6	7